

釧路湿原自然再生協議会 再生普及小委員会  
第11回環境教育ワーキンググループ議事要旨

日時：2013年1月30日（水）15:30～17:00

場所：釧路地方合同庁舎 4階第3会議室

【出席者(敬称略)】

<個人> (出席者 50音順)

- ・神戸 忠勝
- ・新庄 久志
- ・高橋 忠一
- ・鶴間 秀典

<団体>

- ・釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会 鈴木 久枝
- ・釧路市民活動センターわっと 成ヶ澤 茂
- ・こどもエコクラブくしろ 近藤 一燈美
- ・(一財)前田一步園財団 山本 光一

<教育行政関係機関>

- ・釧路市教育委員会 富田 義宏

<関係行政機関>

- ・環境省北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所 西山 理行
- ・国土交通省北海道開発局釧路開発建設部治水課 稲垣 達弘
- ・林野庁北海道森林管理局  
釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター 朝倉 基博、保里 嘉子
- ・釧路市 菊地 義勝

<ワーキンググループ事務局>

- ・環境省北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所  
国立公園・保全整備課 高見沢 敏男  
釧路湿原自然保護官事務所 竹中 康進
- ・公益財団法人北海道環境財団 久保田 学、山本 泰志、清水 美希

## 【議事概要】

事務局 第11回環境教育ワーキンググループ（以下「環境教育WGと表記」）を開催する。今回、初めて参加する委員もいるため、簡単に自己紹介の場を持ちたい。

（西山委員、保里委員自己紹介）

事務局 進行を高橋座長にお願いします。

### 議事1 湿原を題材とした学習資料のとりまとめについて

（以下、高橋座長による進行）

高橋座長 議事1について事務局より説明を求める。

事務局 資料1を元に、事務局から湿原を題材としてとりまとめた学習資料について説明した。資料1と合わせて、学習資料をとりまとめたWEBサイトを壁面に映写しながら説明を行った。

高橋座長 時間をかけて環境教育WGで検討し、全て小学校5年生、6年生の理科になるが、「地層」、「食物連鎖」、「流れる水のはたらき」の3テーマに絞り、釧路の地域的な学習資料として作成した。子ども達にわかりやすく、同時に学術的なしっかりした裏付けもある学習資料を目指し、実情に沿うように専門家や教育委員会からのアドバイスを受けながら作成を進めた。

新庄委員 非常に楽しみである。全国の自然再生協議会の報告会で紹介したい。他の地域のモデルになると思う。

高橋座長 少しずつ学習資料を積み重ねていけば、とても良い学習資料ができるのではと考えている。学校教育に関わる子ども達の見方の立場から、説明があった学習資料はどうか？

富田委員 教科書に合わせた作りになっており、存在を知っていれば先生方は必ず使うだろう。どのように周知していくかが重要になる。

高橋座長 内容について気がついたことがあれば意見をいただきたい。

新庄委員 ホームページを見た人が問い合わせを出来るようになっているか？サイト内のわかりやすい場所を書いておいた方が良い。インターネットの強みを生かし、教育現場からのフィードバックを得たり、関連する情報、写真等を先生方から投稿することが出来るようにしていけると良い。

事務局 現在は環境教育WGで情報をとりまとめて周知し、活用いただくという片方向だが、先生から情報をもらえるようにする等、双方向にできれば、サイトは活かされるのではないかと考えている。

高橋座長 フィードバックを得る道筋をあらかじめ作っておくことの重要性を指摘いただいた。この意見については、次の議事に関連することなので、議事2で題材としていきたい。本日欠席であった教育行政関係機関の委員に事前に意見をいただいたので紹介したい。北海道教育庁釧路教育局の清水委員からは、小学生5年生からを対象としたサイトということなので、説明文にルビを振るなどしてはどうかとのアドバイスがあった。先生が児童にインターネットを見せながら授業を行うということもあるかと思うが。

近藤委員 現在は学校にそれなりの台数のパソコンが入っており、子ども達も自分でホームページ見て調べたりしている。子ども達の活用を促すのであれば、専門用語ではなく平易な言葉を使うことが大事である。

高橋座長 釧路町教育委員会の佐藤委員からは、こうした学習資料はこれまでになく学校で使えるものであるが、何よりも学習資料の存在を周知することが重要とのご意見をいただいた。

## 議事2 学習資料の教育現場への周知、活用促進について

高橋座長 議事2について事務局より説明を求める。

事務局 資料2を元に、学習資料の教育現場への周知、活用促進について事務局案を説明した。

高橋座長 事務局案ということで説明があったが、一般に伝えていくということで長く活動されている立場からどうか。

山本委員 説明のあった内容が、現在考えられるベストなものだと思う。

高橋座長 新たな革新的なものというよりは、地道に周知、活用促進を図っていく他ないかと思う。

山本委員 都度使い、周知をかけていくことだと思う。自身の活動でも様々な場面で伝えていくが、良いものであれば口伝えで伝わっていく。

菊地委員 サンプルCDとあったが、容量的には1枚に収まるのか？

事務局 「流れる川のはたらき～釧路川」の「川下り視点からの動画」を除けば、WEBサイトに掲載している学習資料は4ギガバイト程度の容量となるためDVD1枚に全ての学習資料が収まるものと考えている。

菊地委員 最近、サンプルCDなどが多く出回っているが、目次や索引など全体を見渡せるものがないものが多く、WEBサイトをじっくり見ていかなければどこに何があるかを理解することが難しい。一方WEBサイトでメニューバーをクリックすると小項目が開くもの、WEB内検索をかけられるものなどは、使い勝手が良い。サンプルCDは先生達にどれだけ内容を見てもらえるかが鍵になり重要になってくる。サイトマップなどの印刷物を添付して配布するなど、見てもらうための工夫が大切であろう。

事務局 ワードファイルでパスファインダーのようなものを作成して合わせて送付したい。こうした学習資料はこのフォルダーにあるという案内を示したい。

高橋座長 サンプルCDに収める学習資料は全部で4ギガバイト程の容量になるということなので、実際、全てをじっくり見てもらうことは難しいであろう。

新庄委員 何のために作成するサンプルCDなのか、はっきりさせた方がよい。ホームページの中身を紹介するものであるのか、ホームページの存在を周知するプロモーションのためなのか。ホームページにアクセスして使ってもらうためのプロモーションが必要である。提供したCDをコピーすれば使えるというものであれば、ある意味、本を提供するようなもので、索引をしっかりと作成するなどが必要になる。

菊地委員 プロモーションの方に重きを置くのも良い。

新庄委員 プロモーションを目的にCDを作成するのであれば、コマーシャルと位置づけて考えていく必要がある。インターネットが出来ない人にも気づいてもらうには、違う発表の方法も考えなければならない。ホームページの公開日を決めて、札幌と釧路で同時に記者発表をしてはどうか。記事を見た人はホームページにアクセスしてくれる。プロモーションの戦略を立てることが重要となろう。教員研修については、出向いてPRを行うのであろう。

高橋座長 学校では年度内には翌年の1年間のスケジュールが決まってくるとお聞きしているが、講座などで時間を少しいただきPRさせていただくなどは可能か。

富田委員 年度内には概ねのスケジュールは確定する。担当している釧路教育研究センターが行う研修講座でチラシを配布する、事務局の方に説明いただくなどは可能ではないかと思う。

新庄委員 プロモーションはせいぜい3分から5分程度にまとめる。ホームページを誰かが実際に使いながら、同じ画面内にWEBサイトの内容が表示されるといった映像をまとめる。こういった分野が得意な大学生の力を借りてはどうか。

高橋座長 戦略的に行わなければならない。そういったことも大事なことであろう。

富田委員 今議論されているプロモーションというのは、先生達以外のいろいろな方に見ていただくためということであろうか。

成ケ澤委員 「釧路市民活動センターわっと」にシニア大学の方がよく来られ、釧路川や湿原について勉強されている。そうした方達も対象にしてプロモーションをするのが良いのではないか。

富田委員 先生の立場から考えると、使い方の映像というよりは、先ほど説明のあった写真や動画学習資料を収録したサンプル CD を、全校 5 年生 6 年生分 2 枚ずつ簡単なリーフレットをつけて理科の先生に配布を行い、年度替わりに引き継いでもらうようにすれば良い。より深く知りたい先生などは WEB サイトに入っていくであろう。そういったやり方が現実的であり、先生達にとっても使いやすいものであろう。

鈴木委員 学習資料の作成当初は、小学校 5 学年、6 学年の教科書を見ながら釧路湿原に合わせてどういったものが考えられるかというのが発端であり、まずは先生方にアピールしていきたい。

新庄委員 成ケ澤委員が言ったことのために、我々、環境教育 WG の委員がいる。この学習資料を使いこなして、対象に合わせて噛み砕いて、子ども達、学生などに橋渡しをする。シニア大学にはこう、国立公園ボランティアにはこう、というように、対象に合わせたバージョンのホームページを新たに作るのではなく、学校の先生向けに作成した現在のホームページを、相手に合わせてどう使っていくかを考え、伝えていくのが環境教育 WG メンバーの役割であろう。

近藤委員 ふりがなの点で考えていたが、必要であろうか。子ども達は大人向けのホームページも結構読んでいる。

高橋座長 汎用性を最初から考えて設計すべきという意見であった。対象に合わせて特化して様々なバージョンをつくることは、各対象にとっては理解しやすいかもしれないが、ルビや言葉遣いなど含めて汎用性が重要ということであろう。

新庄委員 インターネットは印刷物と異なり、ルビを振ったりしなくても電子辞書が活用できる。リンクさせる文字をあらかじめ登録しておけばよい。

近藤委員 ルビをつけるのは固有名詞だけで良いのではないか。

事務局 ワードファイルであれば容易にルビを付けることは出来る。

高橋座長 作業の容易さもあろうが、見る人のストレスも考えなければならないだろう。

菊地委員 学習資料の検討を始めた当初は、我々の身近な自然をテーマとした副読本的なものを作ろうとしていたと思う。子どもを対象と考えると、現在のものは少しレベルが高いのではないだろうか。検討したときの記憶がいまいちなため、改めて確認したい。

事務局 児童向けか教員向けかという議論がある。今回説明した学習資料は先生向けに作成している。一方で、児童が見ても大まかな内容は理解できると良いという意見をいただいたと考えている。

高橋座長 先生向けではあるが、子どもが見ることも意識して、言葉遣い等のある程度考える必要があるかも知れない。

鈴木委員 先生向けであればルビは要らないのではないか。

新庄委員 我々がやっているのは、基本的には教材づくりであると考えている。

高橋座長 学校の先生が地域の学習資料を使って教える支援になっているかどうか重要となろう。ふれあいセンターで子ども向けに様々な活動をされてきて、学習資料の提供という点でどうか？

朝倉委員 センター職員が子ども達を対象に実施することが前提で、学校の要望も取り入れる形をとっている。学校の授業の一環として学習プログラムを実施している。

新庄委員 子どもが直接アクセスするのではなく、ふれあいセンターやボランティアレンジャーなど、伝えるために必ず間に大人が入っている。仮に子ども向けに直接伝えるのであれば、アプローチが変わる。

高橋座長 いろいろ議論が行き来してはいるが、私達としては、先生が地域の学習資料を使って子ど

も達に教えるという環境が作れないかということが当初の発想としてあった。様々な意見をいただいたが、多くのことを一度に行うことも難しいため、この当初の考え方にに基づき、スタートしてみても反応を見ながら修正点なども検討していきたい。

西山委員 現段階で見えていただき、事実関係の間違い等があれば教えてほしい。情報の量は調整できるが、事実と異なることは1つとして含まれてはならないので、いろいろな目で見ても指摘をいただきながら作り上げていきたい。

近藤委員 PR チラシ等の話が合ったが、3月の異動のタイミングを外し、4月になってから大きく行った方が良くはないか。

事務局 今年度中には一度周知をかけたいと考えているが、4月以降にも何回かに分けてやっていくことになると考えている。

鈴木委員 年度末は先生も見ることが多くあり、まともに消化できないのではないかと。この時期は早らした方がよい。

高橋座長 双方向的にという話もあったが、やりながら反映させていきたい。周知についてはこのような方法で行ってほしい。また、他にご意見などあれば、事務局にいただければ参考にさせていただきたい。

## その他

事務局 参考資料として添付した教員研修の概要を紹介後、「ワンダグリンダプロジェクト2013」の募集について案内を行った。

高橋座長 今回は詳細な紹介は割愛したが、参加教員からの意見は貴重なものも多く、後ほどご覧いただきたい。

事務局 環境教育WGの状況は、自然再生協議会にも報告を行う。次回の開催は夏頃と考えている。これで第11回環境教育WGを終了する。

以上